



2009年12月21日  
システムクリエイト株式会社  
技術部

## RamSan-20 接続検証結果報告書

### 1. 目的

Texas Memory Systems 社製 RamSan-20 と富士通社製サーバ、PRIMERGY RX600 S4、PRIMERGY TX200 S5 にて問題なく接続できることを確認するため本接続検証を実施いたします。

表 1. 検証サーバと OS 一覧

富士通社製サーバ名	搭載 OS
PRIMERGY RX600 S4	Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for Intel 64bit) ※1
PRIMERGY RX600 S4	Windows Server 2008 Enterprise (64-bit) SP2 ※2
PRIMERGY TX200 S5	Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for Intel 64bit) ※1
PRIMERGY TX200 S5	Window Server2008 R2 Enterprise (64-bit) ※3

<※1 Red Hat Enterprise Linux 5.4 (for Intel 64bit) 以下、RHEL5.4 と呼ぶ>

<※2,※3 Windows Server 2008 Enterprise (64-bit) SP2 及び

Window Server2008 R2 Enterprise (64-bit) 以下、Windows2008 と呼ぶ>

### 2. 接続評価装置

表 2. RamSan-20 評価装置

製品名	ファームウェア/ ドライババージョン	容量	インターフェイス
RamSan-20	1.2.1.0	OS 認識容量 450GB <DDR Cache 部 750MB> <SLC Flash 部 640GB>※4	PCI-Express (x4)

<※4 OS 上からは 450GB として認識 (その他容量は代替余剰容量となっている) >

### 3. 検証期間・検証場所

2009年12月15日～12月18日

富士通 Platform Solution Center 29F

Validation 8

Server 29-1

### 4. 検証構成図

#### 4-1. PRIMERGY RX600 S4 と RamSan-20 接続構成図

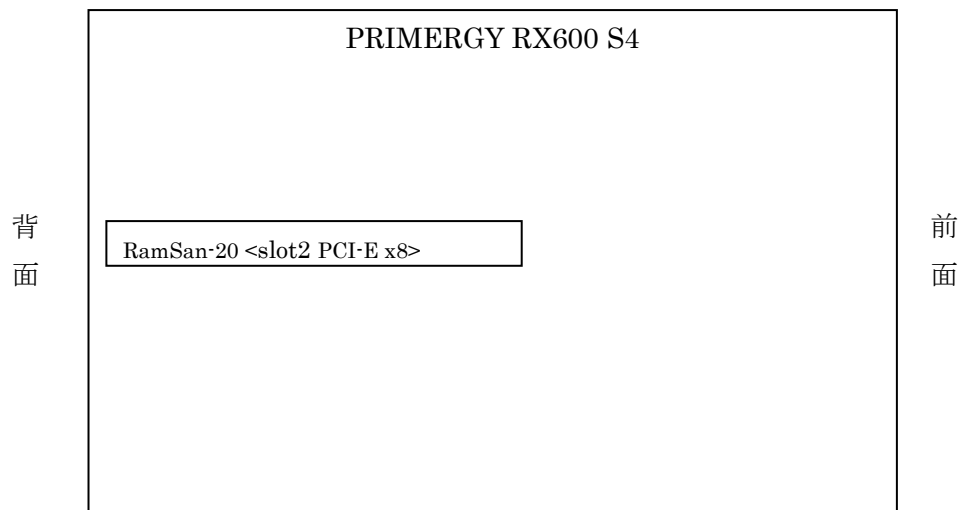


図 1-1. PRIMERGY RX600 S4 と RamSan-20 接続図

4-2. PRIMERGY TX200 S5 と RamSan-20 接続構成図

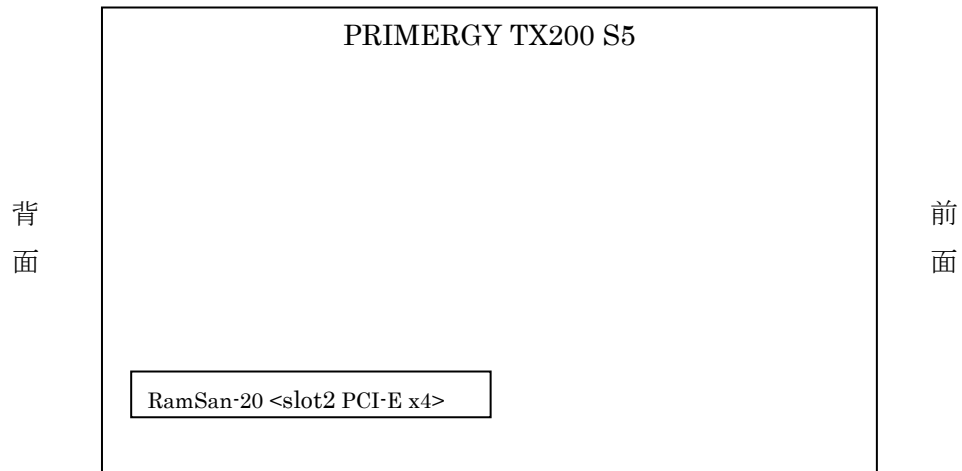


図 1-2. PRIMERGY TX200 S5 と RamSan-20 接続図

5. 接続検証テスト概要

表 3-1. 接続検証項目一覧

機種 テスト項目	PRIMERGY RX600 S4		PRIMERGY TX200 S5	
	RHEL5.4	Windows2008	RHEL5.4	Windows2008
デバイス認識	○	○	○	○
デバイス初期化	○	○	○	○
フォーマット	○	○	○	○
マウント	○	○	○	○
アンマウント	○	○	○	○
オートマウント	○	○	○	○
サーバ/boot/reboot	○	○	○	○
I/O テスト	○	○	○	○

表 3-2. テスト項目確認概要

対象 OS 対応 OS	RHEL5.4	Windows2008
デバイス認識	lspci	デバイスマネージャ / ディスクの管理
デバイス初期化	fdisk	ディスクの管理
フォーマット	mkfs	ディスクの管理より
マウント	mount	ドライブレター割り当て
アンマウント	umount	ドライブレター削除
オートマウント	/etc/fstab に記述	ドライブレター割り当て
サーバ/boot/reboot	shutdown -h now / reboot	終了 / 再起動
I/O テスト	IOzone3.327	



## 6. 結果

本検証において、富士通社製 PRIMERGY RX600 S4、PRIMERGY TX200 S5 と RamSan-20 が問題なく接続できることを確認いたしました。

## 7. 備考

本検証に関するお問い合わせにつきましては下記になります。

システムクリエイト株式会社 技術部

東京都千代田区神田鍛冶町 3-4-2 神田東洋ビル 12F

TEL 03-5296-3775

E-mail : sales@sc-i.co.jp

URL : <http://www.sc-i.co.jp>